

新とちぎ系種苗の冷水病に対する抗病性と放流後の移動状況について

県漁連種苗センターでは、「新とちぎ系（那珂川系×七色系）」を新たに作出し、今年度から種苗供給を開始しました。当场でも新とちぎ系を田川に放流し、調査を行ったので、その概要を報告します。

解禁日には冷水病が発生していましたが、新とちぎ系はとちぎ系（ダム湖系×七色系）に比べて外観症状のある魚の割合が低い結果となりました（図）。漁場を5区間に分けて新とちぎ系の移動状況を追跡したところ、放流地点から3.5kmの範囲に多くの魚が定着したと考えられました。また、魚道を遡上し、上流部に定着したことも確認できました。

今後、新とちぎ系ととちぎ系の釣れやすさの検証について取り組む計画です。

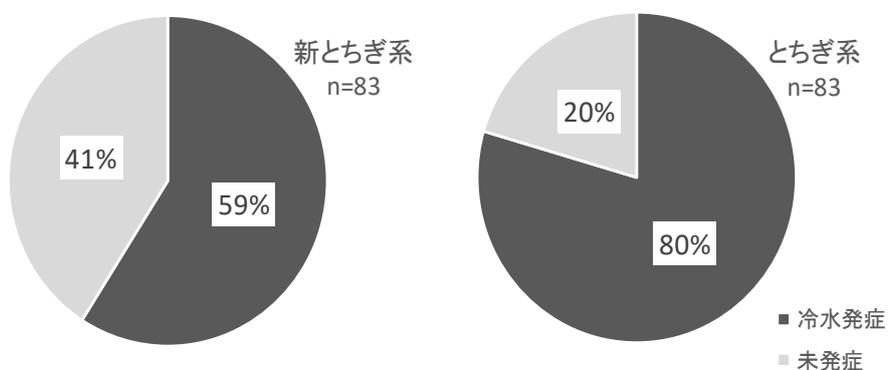


図 解禁日の冷水病の有症率（外観症状）

表 新とちぎ系の区間ごとの月別平均釣果（尾/人/日）

調査区間	6月	7月	8月	平均	釣行回数	備考
① (0.3-1.7km)	2.0	2.7	3.0	2.7	11	堰上流(魚道あり)
② (-1.4km)	1.6	2.2	-	2.1	19	放流地点
③ (-3.5km)	-	3.3	-	3.3	9	
④ (-5.4km)	0.3	0.0	0.0	0.2	6	
⑤ (5.4km-)	0.3	0.3	0.0	0.3	63	

※ -は釣行実績なし